



京都産業大学
学生FDスタッフAC燦
マスコットキャラクター
SUNちゃん

「理系英語講義FDプロジェクト研修会」 詳しくは4Pへ！

副センター長就任のご挨拶

京都産業大学
教育支援研究開発副センター長
中村 暢宏



総合生命科学部でゴルジ体の研究をしています。
10月1日付で、グローバルサイエンスコース担当から
昇格(?)して、副センター長を仰せつかりました。教育支援
に関しては素人ではございますが、微力ながら皆様のお役に立
ちたいと思っております。さて、最近、日本でもオンライン講
義(MOOCs)を利用した反転授業やアクティブラーニングが
注目を集めています。本学でもまさにこれらの取り組みに関連
した公開授業やワークショップが続々開催予定です。教職員の
皆様とこれらの取り組みについてディスカッションできるの
を楽しみにしております。
今後ともどうぞよろしくお願い致します。

Contents



- ◆いま、初年次教育、
リメディアル教育がアツイ！！
 - ★公開授業&ワークショップ
 - ・各学部の実施科目一覧
 - ★初年次教育実践事例
 - ・SAの活用—法学部の取り組み
 - ・TAの活用—外国語学部の取り組み
 - ・大人数講義の運営—経営学部の取り組み
- ◆これもアツイ！！
英語による専門講義・アクティブラーニング
 - ★理系英語講義FDプロジェクト研修会
参加報告
 - ★新しい学びの空間づくりに向けて
～アクティブ・ラーニング実践報告会～
開催案内

いま、初年次教育・リメディアル教育がアツイ！！

少子化による大学進学率の上昇や高校のカリキュラムの多様化等を背景に、入学生の質は変化しています。大学で学ぶ準備ができていない学生（学力が低い学生、自分で問題を発見・解決することが苦手な学生、他人と議論し自分の考えを伝えることが苦手な学生、学習意欲が低い学生等）に対して、もはや大学が手をこまねているわけにはいけなくなりました。

What's ショネンジキョーイク？



初年次教育とは、入学生を対象に、大学での学びに必要なスキルやコミュニケーションなどを学ばせる教育です。各大学では、「レポート・論文の書き方」「ディスカッションや口頭発表の技法」「図書館のレファレンス機能」等を行っています。

What's リメディアルキョーイク？



リメディアル教育とは、大学で学ぶにあたり不足している基礎学力を補うために行われる教育です。具体的には、一般入試以外の形態で合格が決まった入学予定者に自宅学習を課す、高校までに未履修の科目を1年次で補習させること等が該当します。

初年次教育・リメディアル教育は、「学習成果実感調査」「公開授業&ワークショップ」の実施テーマに設定される等、本学の学部の問題意識としてもアツイんです！！



「公開授業&ワークショップ」

「公開授業&ワークショップ」は、教員、学部等が抱える諸問題または優れた取り組みを共有し、授業改善のための教員による相互研鑽及び、学部等のカリキュラム改善等に繋げることを目的として、毎年度秋学期に学部単位で実施しています。

平成26年度春学期、学部単位で予め設定された実施テーマ・実施科目・選定理由は以下の通りです。

このワークショップから教授方法等の共有が行われることにより、授業改善がより一層促進され、授業を受ける学生が主体的に学ぶようになることが望まれます。

➡ CLOSE UP! 初年次教育を取り上げた学部の実施科目一覧

学部	実施テーマ	実施科目	主な選定理由
経済	導入教育の向上	入門セミナーB	2014年度春学期の「学習成果実感調査」結果より、 導入教育の有効性 を高めるための課題として基礎的内容の理解、および、1限との連携が課題であることが示唆されたため。
経営	イントロダクトリー教育における教育の質保証	企業と社会	① 学部専門教育への導入科目 である、イントロダクトリー科目を重視しており、運営が比較的困難な 多人数授業の質保証 を目指しているため。
法	ブレップセミナー：教員の視点、SAの視点、受講生の視点	法教育演習Ⅰ	法学部におけるユニークな（ SA育成 、問題解決型の側面）授業であるため、また、SA候補の受講生と法学部教員がより良い授業について考える機会となるため。
外国語	TAを使った授業の導入と運営方法について	○専攻中国語（構造）Ⅱ ○情報英語Ⅱ ○インテンシブ・中国語ⅣDE	公開授業に参加すること、ワークショップで公開授業の担当教員からのアドバイスを受けることにより、 TAを使った授業導入 の検討が進むものと考えられるため。また、公開授業の担当教員と参加者とのワークショップでの意見交換により、 TAを使った授業 がより一層充実したものになることも期待されるため。
文化	初年次教育の在り方について	入門セミナー	来年度からの担当教員への引継ぎも兼ね、今年度の担当教員による授業紹介を行い、今後の文化学部における 初年次教育の在り方 について意見交換を行うため。 ※「入門セミナー」とは？ 文化学部の学部改革にともない、来年度よりゼミが4年間必修となる。「入門セミナー」は、一回生を対象とするゼミであり、4年間の学びを左右する重要な科目である。来年度より、必修科目となり、開講コマ数も増え、多くの教員が携わることになる。

➡ Coming Up Next! リメディアル教育・その他のテーマを取り上げた学部の実施科目一覧

学部	実施テーマ	実施科目	主な選定理由
理	基礎科目の充実	代数学・幾何学-1・2	(1) 数理科学科2年生の必修科目であり、実施テーマである「基礎科目の充実」に合致しているため。 (2) 4時限目に開講されており、公開授業後のワークショップも含めて、履修学生や教員の多くの参加が期待できるため。 (3) 学生から人気のある若手教員の講義であり、熟練した教員にも、学ぶ点は大いにあるため。
コンピュータ理工	コンピュータ理工学部の数学教育について再考する	○微分積分Ⅱ ○線形代数Ⅱ ○コンピュータのための数学Ⅱ	数学系科目の改革を行う前に、コンピュータ理工学部教員が本学部学生の数学の現状を把握し、ワークショップにおいて数学教育の改革および改善案を議論するため。 ※本学部学生の一部が数学を苦手としており、数学系科目がネックとなって低単位や留年になる学生がいるという現状を受けた改革である。
総合生命	動物育種の基礎	動物育種学	担当教員が、特に動物資源の保存と利用に関する理論や実状に造詣が深く、当該科目の公開により、参加者に関心と理解を喚起できるため。
体育教育	同一科目複数開講クラスの授業運営方法等	○健康科学実習 ○スポーツ科学実習	男女混合クラスでの運営方法等の参考とするため。 ※構成員全員が担当している実習科目であるので、平成23年度から実施している。

(上記一覧の選定理由は「実施計画書」より一部抜粋)



2014年度春学期から、法学部の初年次教育「プレップセミナー」には、1年生の学習を支援し、授業運営を助けるスチューデントアシスタント（以下、SA）が活用されています。法学部ではこれに先立って、2013年度秋学期に2年生を対象とした「法教育演習Ⅰ」を開講し、学部教育の中で、SAの育成に取り組んでいます。2014年度秋学期には、この「法教育演習Ⅰ」の第12週目の授業が公開され、ワークショップが実施されました。

公開授業では、SA候補の受講生が、プレップセミナーさながらに「公立中学校において、クラブ活動を外注して有料とする政策を実施すべきか否か」について実際にディベートを行いました。ディベート終了後には、ディベートの検証とジャッジの振り返りを全員で行い、担当教員からの法学部で学生が身につけるべき論理展開の説明に沿って、双方向講義形式の演習が行われました。受講生にとって、プレップセミナーの学習活動を体験し、プレップセミナーの担当教員の視点・考え方を理解して、1年生への支援をSAとして検討できる有益なトレーニングが構成されていました。

ワークショップでは、SAの授業への入り方、教員とSAとの距離感、プレップセミナーでのSA活用の工夫など、プレップセミナーを担当している教員と参加者との意見交換が行われ、専門ごとに「作法」や「型」がある学びの中で、同じ学部の先輩がその学びを支援する仕組みがいかに重要であるかが再確認されました。



外国語学部の初年次科目「情報英語Ⅱ」「専攻中国語（構造）Ⅱ」には、1年生の学習を支援し、授業運営を助けるティーチングアシスタント（以下、TA）が活用されています。

「情報英語Ⅱ」は約40人規模の実習授業で、主にコンピュータ操作について、学生がTAに頻りに質問し助言を受けています。「専攻中国語（構造）Ⅱ」は、母国話者である中国人TAの発音に続き、学生が発音しています。語彙や語法のニュアンスについて学生がTAに質問し、中国語を学んでいます。

当日のワークショップには21名（教員・職員・TA）の参加がありました。最初にTA配置科目の授業が紹介され、公開授業に参加した教員から授業の感想が述べられました。そのあとで意見交換が行われました。TAの役割について活発な議論が行われ、TAの活用目的である「学部教育の充実」がなされているかを各自が振り返る場面がありました。

現在外国語学部では、英語科目と中国語科目にTAが配置されていますが、他言語科目におけるTA等（SA・授業補助員）の活用についても話が展開し、ワークショップが締めくくられました。

第一弾★初年次教育特集！



アツイ取り組みが学内にはいっぱい！
第2弾でもご紹介します！！



経営学部の「公開授業&ワークショップ」では、イントロダクトリー教育における教育の質保証をテーマに「企業と社会」が授業公開されました。「企業と社会」は授業の6週目までに「教員-学生間の授業に関する対話シート」が実施されており、学生から「経営学をもって勉強したい」「仕事に興味湧いた」等の回答が挙がっています。公開授業では、こうした学生の意見を考慮した、知的好奇心をくすぐるような工夫が見受けられました。授業の冒頭部分は、身近なニュースに関心を持ってもらうために、テレビや新聞をプロジェクトに透写し、視覚を通じた授業への導入が行われます。授業の後半では学生の理解を深めるための「クイズペーパー」が配布されました。翌週の授業では優れた回答例が紹介され、学生の学習意欲をさらに刺激する取り組みが展開されています。

学生の声に応じた授業が展開されていることが、経営学部の教育の質保証につながっています。

これもアツイ！！英語による専門教育・アクティブラーニング

今、「英語による専門教育」と「アクティブラーニング」は外すことのできないホットトピックです。本学でも様々な取り組みや事業が展開されています。今回はその中でも理系英語講義についてのFD企画の報告とアクティブラーニング実践報告会を取り上げます。

What's エイゴによるセンモンキョーイク？

世界各国で大学のグローバル化が進む中、日本でもグローバル化を目指す各大学で「国際競争力をつけるために」英語による授業の設置が推進されています。文部科学省の調査によれば、学部段階で「英語による授業」を実施している大学数は、平成24年度では241大学（全体の32%）に上り、自分の専門性をよりグローバルな視点で学び、考えるベースを作るために、英語による専門教育を実施する大学が年々増加しています。

What's アクティブラーニング？

“主体的学習” “能動的学習” という意味でつかわれています。個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習等を中心とした授業の取り組みを指す場合が多く、いかに効果的に学習を行っていくかという点に着目し、文科省でも大学教育の中で促進することを提唱しています。

理系英語講義 FD プロジェクト研修会

理系学部（理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部）で英語による専門教育を拡充するに当たって、まずは学部横断で情報共有を図ろうと、本学グローバル人材育成推進事業 GSC プロジェクトチームの呼びかけで、理系英語講義 FD プロジェクトの研修会が2月3日（火）に開催され、31名の教職員が参加した。研修会では、英語による専門教育に限らず、各学部の英語教育の概要や、授業の工夫、教材などが幅広く紹介された。

【話題提供された講義科目】

- ・理学部
「物理学英書講読」他
- ・コンピュータ理工学部
「固体物理」他
- ・総合生命科学部
「生命システム英語講義」他



各学部からは、英語で聞き、話し、書く力を付けるためにも、専門教育で英語の読解力を伸ばすことの重要性や、論理的にまとめ発信するために、まず学生の日本語による論理的思考力を鍛える必要があることなど様々な問題意識が共有され、学生の大学院進学も視野に、学部教育で英語をどのように教えるべきかも話題に挙げられた。参加者は、理系の専門知識の習得に英語学習をいかに結び付けるか耳を傾けた。

今後も本学理系学部全体の英語教育プログラムの改善に繋がる理系英語講義 FD プロジェクトの推進が期待されている。これらの内容については、今後、報告書などで発信される予定である。

平成26年度 教育支援研究開発センター主催研修会・年間活動まとめ

■全学 FSDS 研修会

「英語によるアカデミックライティングの手法に関する FD/SD」「発達障害の理解および学内における支援について」「ユニバーサルデザインの講義 ーすべての学生に受けやすい講義の形とはー」「理系英語講義 FD プロジェクト」「新しい学びの空間づくりに向けて～アクティブラーニング実践事例報告会～」

■新任教員研修会

「京都産業大学の教育の特色／先輩若手教員からみた本学学生の特徴／本学における授業の運営方法」「教員—学生間の授業に関する対話シート／アンケートの特徴と活用方法」

■授業アンケート（2種類）

「教員—学生間の対話シート」「学習成果実感調査」

■その他

「学生FDサミット 2014 夏」「KAKEHASHI Project」「雄飛館ラーニングcommonsオープニングセミナーシリーズ1～5」「アクティブラーニングワークショップ『人生すごろく—金の糸』『宇宙箱舟』『高等教育フォーラム vol.5』『CERADES News』学部による公開授業&ワークショップ／高等教育関連学会への参加・発表／高等教育に関するレファレンス 等

『CERADES News』Vol. 4 平成27年3月発行

編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel : (075)705-1729

mail : kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

<http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/>

ご参加お待ちしております！！

アクティブラーニング実践報告会

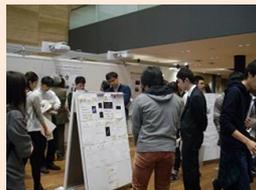
『新しい学びの空間づくりに向けて
～アクティブラーニング実践報告会～』

第1部 実践事例報告

- ・アクティブラーニング型授業実践事例報告
（全学1講義・理系1講義・外国語2講義 各15分）
- ・他大学事例紹介
（京都外国語大学 外国語自立学習支援室 NINJA）

第2部 グループディスカッション

- ・ディスカッションテーマ
「アクティブラーニング型授業の展開」
- 日時：平成27年3月24日（火）14:00～17:00
場所：京都産業大学・雄飛館ラーニングcommons
お問い合わせは
学長室（雄飛館ラーニングcommons担当）
下記アドレスへメールにてご連絡ください。
Mail : y-lc@star.kyoto-su.ac.jp
また本学 HP（ラーニングcommons）にて実施要項を掲載していますので、そちらからもご確認ください。



（ラーニングcommonsを使ったアクティブラーニングの様子）